

1. 構造名：

両面化粧有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏

2. 申請仕様の寸法：

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項 目	申 請 仕 様
軒の出	1000mm以下
軒の幅	構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法
軒の形状	勾配又は水平

3. 申請仕様の主構成材料：
申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項目	申請仕様
被覆材	<p>材料：両面化粧有機質系繊維混入セメント板</p> <p>組成：</p> <p>セメント質原料 70(±7)質量%</p> <p>無機質混和材 22(±7)質量%</p> <p>有機質繊維 6(±2)質量%</p> <p>有機質混和材 2(±1)質量%</p> <p>但し、</p> <p>セメント質原料：セメント、けい酸質原料等</p> <p>無機質混和材：パーライト、マイカ等</p> <p>有機質繊維：パルプ、合成繊維等</p> <p>有機質混和材：パルプ粉等</p> <p>塗料(表裏面)</p> <p>材料：1)～6)の一</p> <p>1)アクリルウレタン樹脂系塗料</p> <p>2)アクリル樹脂系塗料</p> <p>3)アクリルシリコン樹脂系塗料</p> <p>4)ふっ素樹脂系塗料</p> <p>5)エポキシ樹脂系塗料</p> <p>6)ポリシロキサン樹脂系塗料</p> <p>塗布量：表裏面合計350g/m²以下(有機固形分量)</p> <p>密度：0.9(-0.1)g/cm³以上</p> <p>形状：</p> <p>1)表面形状</p> <p>厚さ：11～25(±1)mm</p> <p>幅：455mm以上</p> <p>2)断面形状(図6参照)</p> <p>最低板厚(中実部)：9mm以上</p> <p>容積欠損率(模様深さ)：9.5%以下</p> <p>(但し、板厚11mmを超える場合は裏面から11mmの位置での欠損率とする)</p> <p>3)表面の形状：①～④の一</p> <p>①平滑</p> <p>②平滑・溝加工</p> <p>③エンボス</p> <p>④エンボス・溝加工</p>
野縁	<p>材料：日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材</p> <p>断面寸法：30×30mm以上</p> <p>取付間隔：500mm以下</p>
吊り木	<p>材料：①又は②</p> <p>①なし</p> <p>②日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材</p> <p>断面寸法：30×30mm以上</p> <p>取付間隔：500mm以下</p>

4. 申請仕様の副構成材料：

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項目	申請仕様
目地部材	<p>材料：①、②又は③(図6参照)</p> <p>①突付け目地</p> <p>②金属ジョイナー ジョイナーの材質：1)～7)の一 1) 溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) 2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) 3) 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) 4) ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744、金属板のアルミニウム又はアルミニウム合金板は除く) 5) 熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304) 6) 冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305) 7) 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069及び0070) 厚さ：0.25mm以上 形状：H形又はT形 塗料(あり又はなし)：1)～7)の一 1) アクリルウレタン樹脂系塗料 2) アクリル樹脂系塗料 3) アクリルシリコン樹脂系塗料 4) ふっ素樹脂系塗料 5) エポキシ樹脂系塗料 6) ポリシロキサン樹脂系塗料 7) ポリエステル樹脂系 塗布量：300g/m²以下(有機固形分量)</p> <p>③本実・合いじゃくり目地 端部形状(外装材相互の重なりと隙間、図6参照) 重なり：6mm以上、隙間：3mm以下 ・目地部防水材 材料：1)又は2) 1) なし 2) 合成ゴム 使用量：5g/m以下</p>
留付材	<p>被覆材固定用：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①リングくぎ ②スクリューくぎ 材質：1)又は2) 1) ステンレス鋼線(JIS G 4309) 2) 鉄線(JIS G 3532) 寸法：胴部径φ2.3×長さ38mm以上</p> <p>③タッピンねじ 材質：1)又は2) 1) 冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2) 冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 寸法：呼び径φ2.0×25mm以上</p> <p>留付間隔：227mm以下 取付方法：野縁並行組又は野縁梯子組</p>

つづく

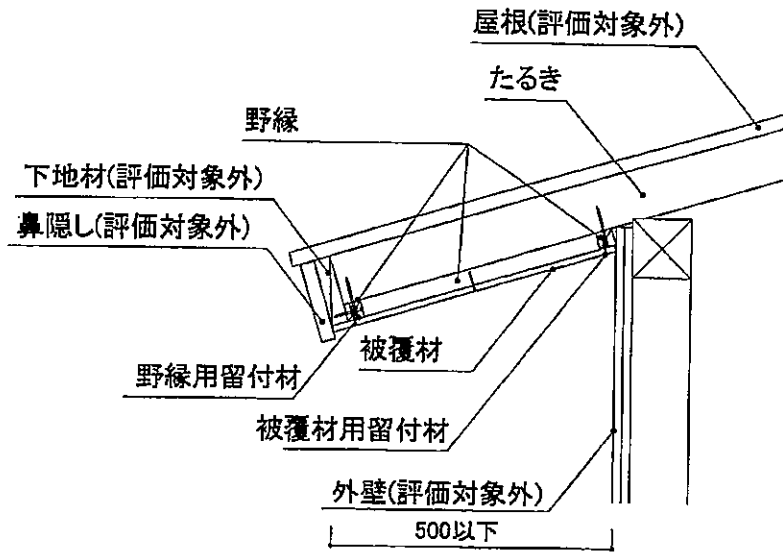
つづき

留付材	<p>野縁固定用(たるきへの固定) :</p> <p>材料 : ①、②又は③</p> <p>①鉄丸くぎ (JIS A 5508) 寸法 : N75以上</p> <p>②くぎ 材質 : 1) 又は2) 1) ステンレス鋼線 (JIS G 4309) 2) 鉄線 (JIS G 3532) 寸法 : 胴部径 ϕ 2.75 \times 長さ75mm以上</p> <p>③タッピンねじ 材質 : 1) 又は2) 1) 冷間圧造用炭素鋼 (JIS G 3507-2) 2) 冷間圧造用ステンレス鋼線 (JIS G 4315) 寸法 : 呼び径 ϕ 2.5 \times 40mm以上</p> <p>留付間隔 : 500mm以下</p>
	<p>野縁固定用(鼻隠し下地への固定) :</p> <p>材料 : ①、②又は③</p> <p>①鉄丸くぎ (JIS A 5508) 寸法 : N50以上</p> <p>②くぎ 材質 : 1) 又は2) 1) ステンレス鋼線 (JIS G 4309) 2) 鉄線 (JIS G 3532) 寸法 : 胴部径 ϕ 2.75 \times 長さ50mm以上</p> <p>③タッピンねじ 材質 : 1) 又は2) 1) 冷間圧造用炭素鋼 (JIS G 3507-2) 2) 冷間圧造用ステンレス鋼線 (JIS G 4315) 寸法 : 呼び径 ϕ 2.5 \times 40mm以上</p> <p>留付間隔 : 500mm以下</p>
	<p>吊り木固定用(吊り木を用いる場合) :</p> <p>材料 : ①、②又は③</p> <p>①リングくぎ</p> <p>②スクリューくぎ 材質 : 1) 又は2) 1) ステンレス鋼線 (JIS G 4309) 2) 鉄線 (JIS G 3532) 寸法 : 胴部径 ϕ 2.3 \times 長さ50mm以上</p> <p>③タッピンねじ 材質 : 1) 又は2) 1) 冷間圧造用炭素鋼 (JIS G 3507-2) 2) 冷間圧造用ステンレス鋼線 (JIS G 4315) 寸法 : 呼び径 ϕ 2.0 \times 45mm以上</p> <p>留付間隔 : 227mm以下</p>

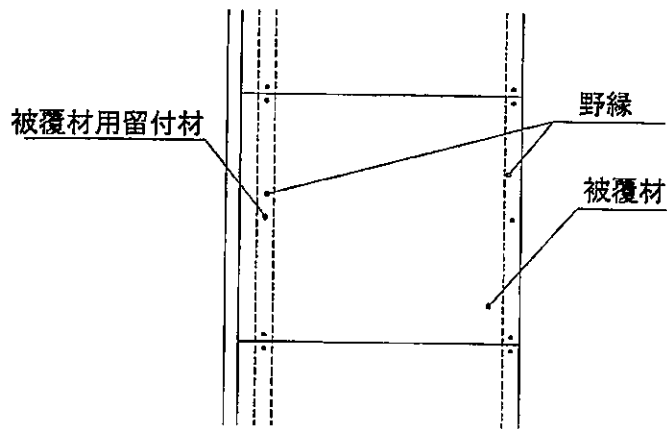
5. 申請仕様の構造説明図 :
申請仕様の構造説明図を図1～図6に示す。

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

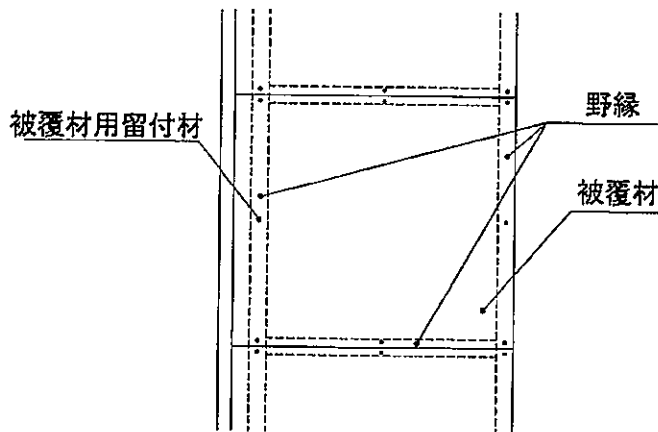
単位 mm



軒部詳細図



被覆材平面図(野縁平行組)



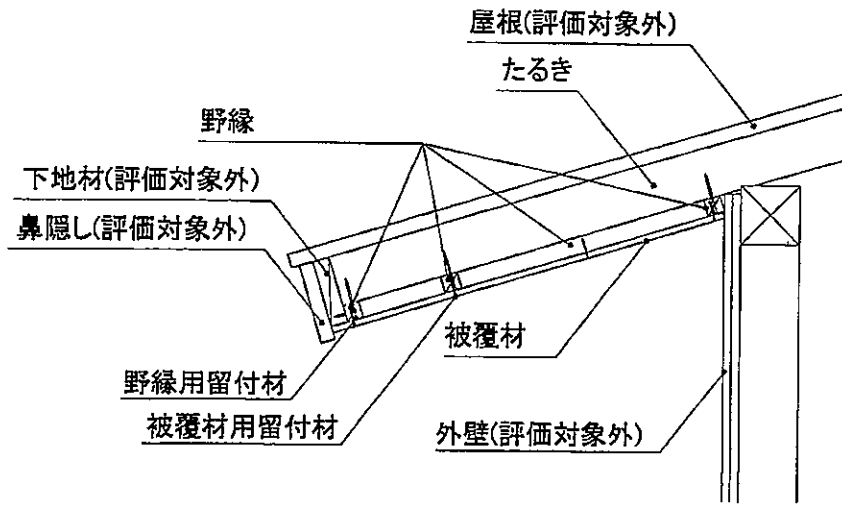
被覆材平面図(野縁梯子組)

図1 構造説明図

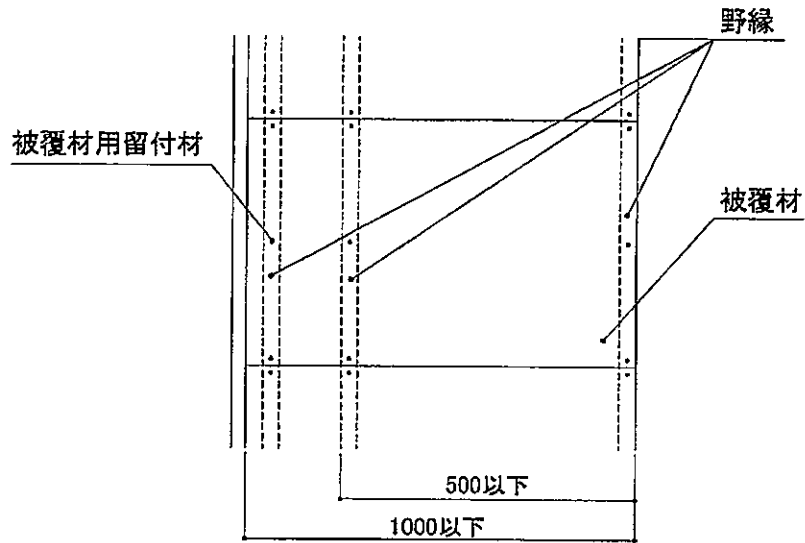
被覆材勾配

軒の出(被覆材長さ)が500~1000mm以下の場合

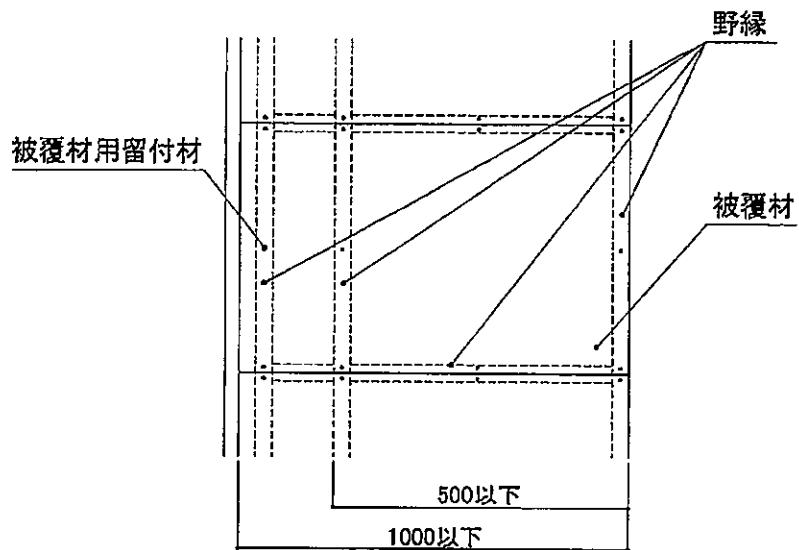
単位 mm



軒部詳細図



被覆材用平面図(野縁平行組)

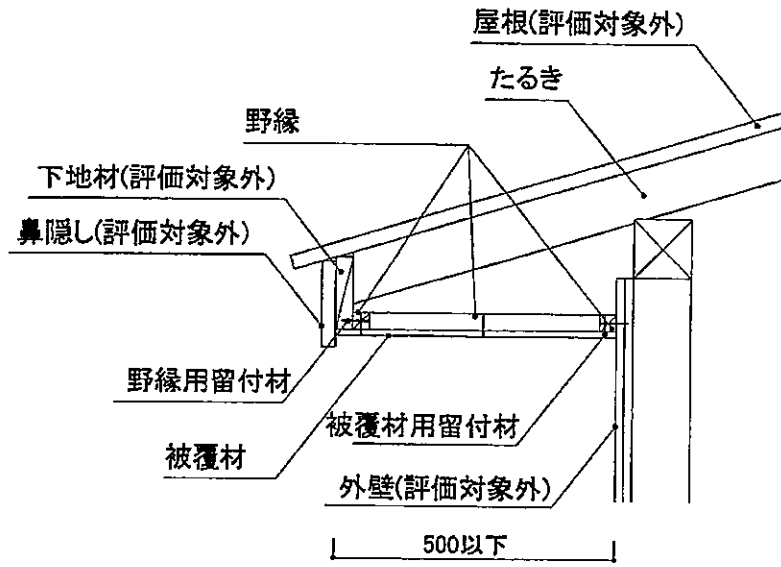


被覆材平面図(野縁梯子組)

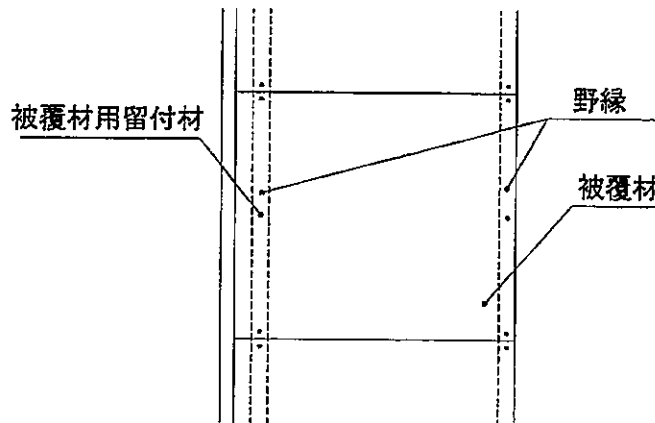
図2 構造説明図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

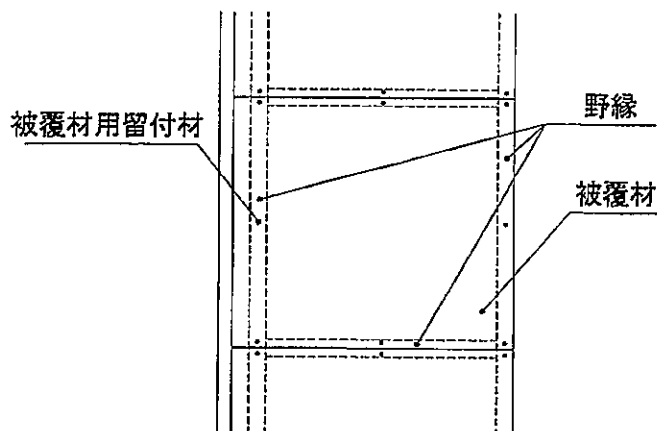
単位 mm



軒部詳細図



被覆材平面図(野縁平行組)



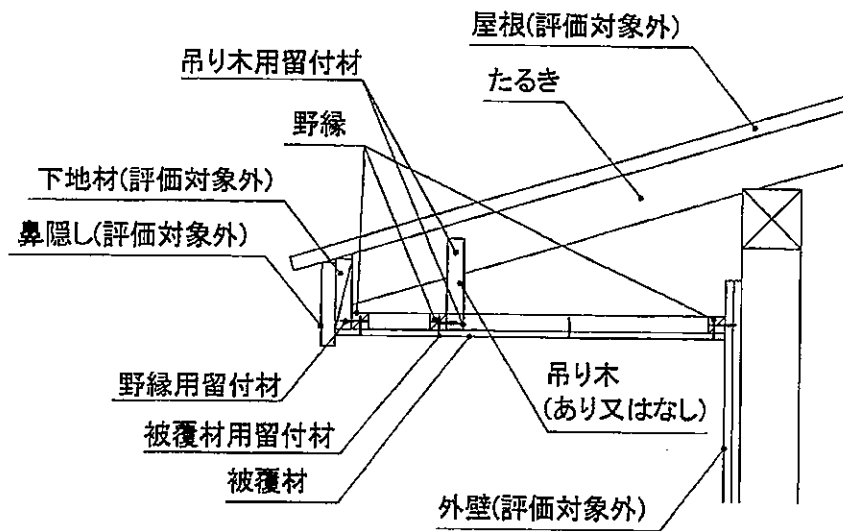
被覆材平面図(野縁梯子組)

図3 構造説明図

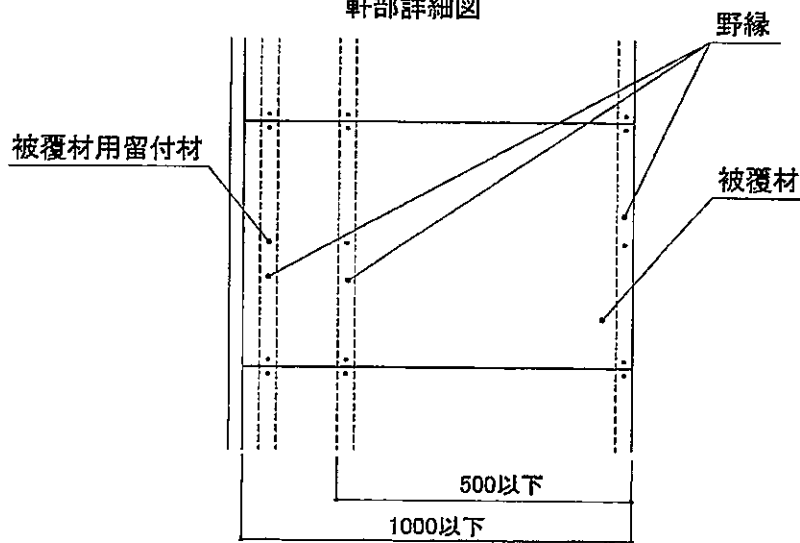
被覆材水平

軒の出(被覆材長さ)が500~1000mm以下の場合

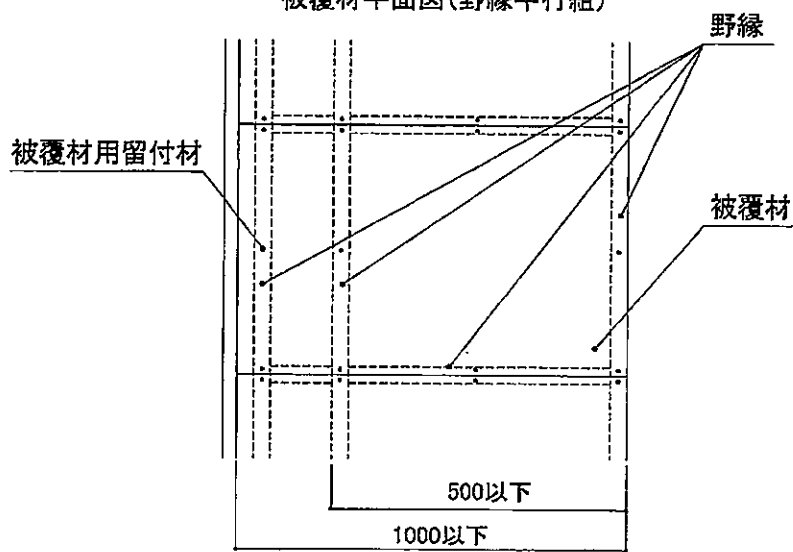
単位 mm



軒部詳細図

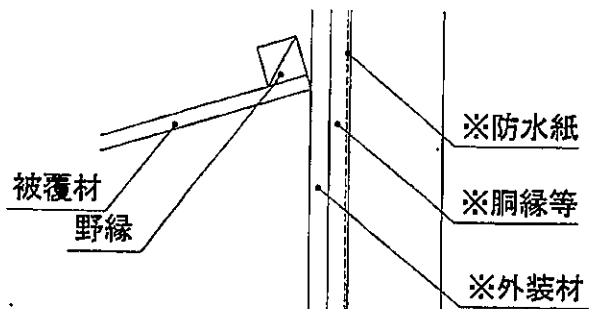


被覆材平面図(野縁平行組)

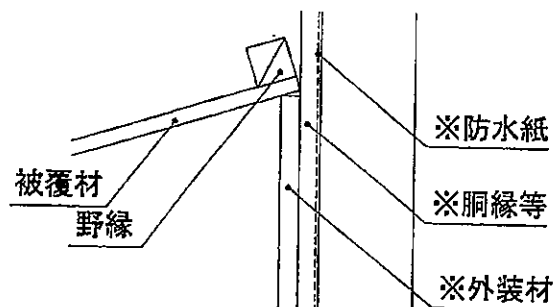


被覆材平面図(野縁梯子組)

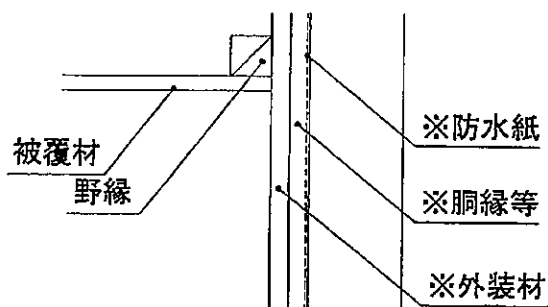
図4 構造説明図



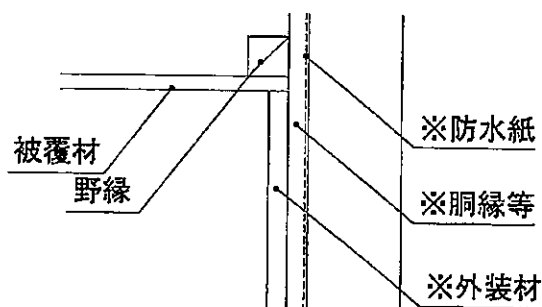
①被覆材勾配、外壁材勝ちの場合



②被覆材勾配、被覆材勝ちの場合



③被覆材水平、外壁材勝ちの場合



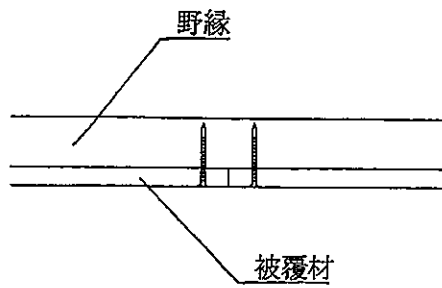
④被覆材水平、被覆材勝ちの場合

※:評価対象外

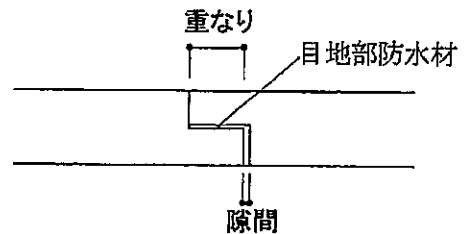
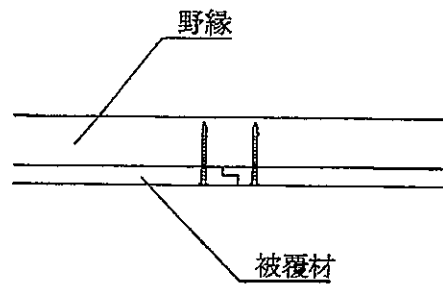
軒元の納まり図

図5 構造説明図

①突付け目地

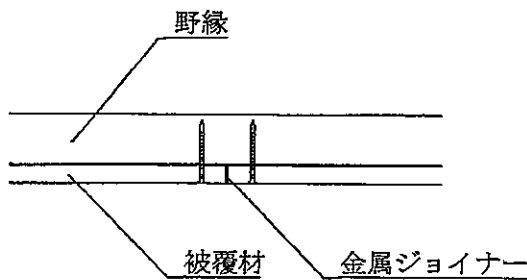


②本実・合いじゃくり目地

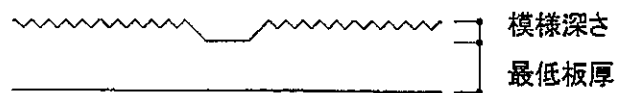


合いじゃくり形状

③金属ジョイナー目地



被覆材の目地処理(目地部材)



被覆材断面形状

図6 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図7～図10に示す。

施工方法は以下の手順で行う。

(1) たるきの取付け

屋根材にたるきを取付け、たるきに下地材を取付ける。

(2) 野縁の取付け

1) 軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合は、野縁を軒の出方向及び軒の幅方向に配置し、取付間隔が500mm以下となるよう、野縁固定用留付材を用いて下地材、たるきを取付ける。

2) 軒の出が500mm以上の場合は、必要に応じて吊り木を設け、1)と同様の方法で取付ける。

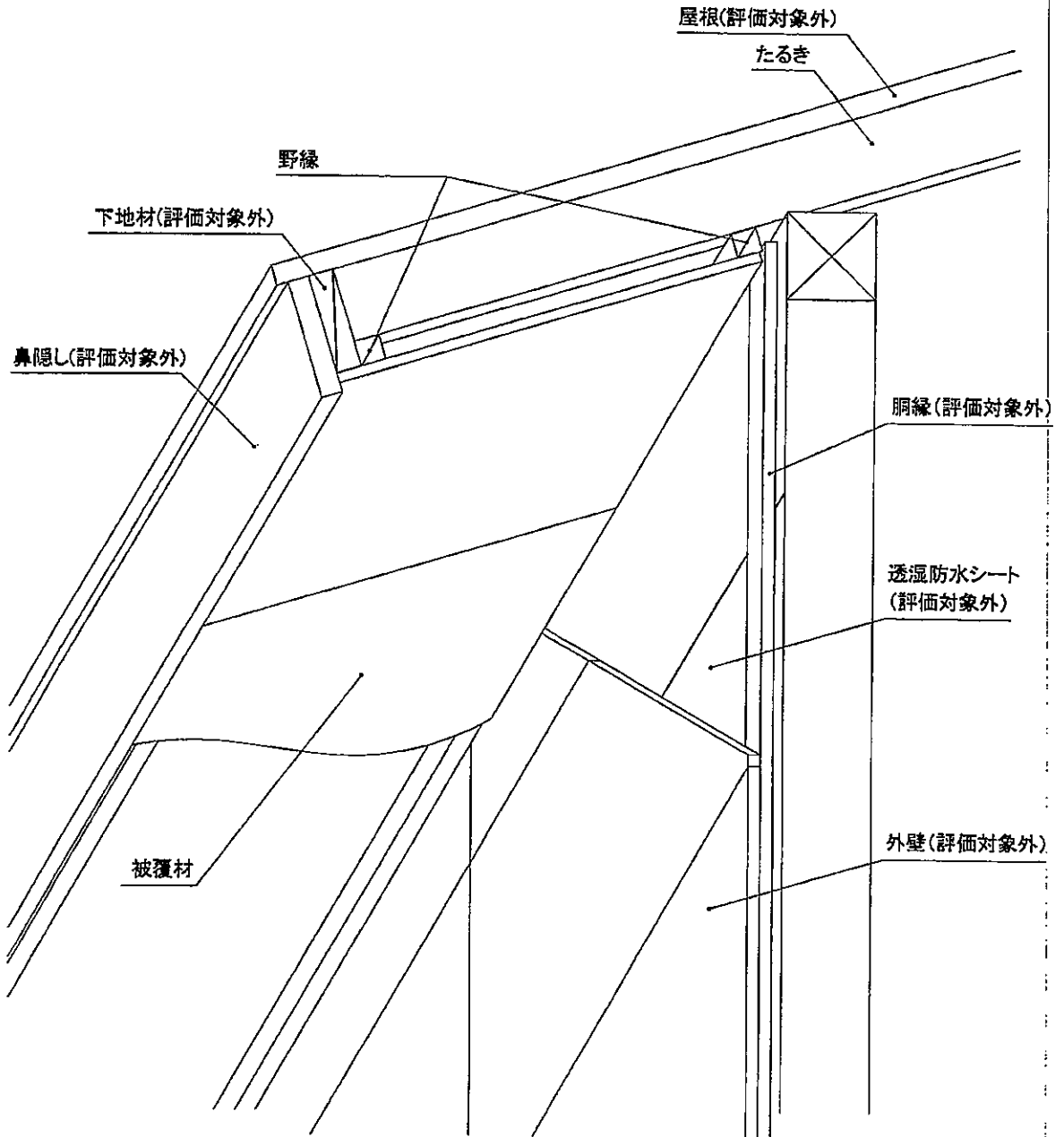
(3) 被覆材の取付け

1) 被覆材は、被覆材固定用留付材を用いて野縁に取付け、取付方法は並行組又は梯子組とする。

2) 目地仕様は、突付け、金属ジョイナー又は本実・合いじゃくりとし、合いじゃくり部の目透かし幅は3mm以下とし、重ね代は9mm以上とする。

3) 被覆材と外装材は壁勝ち又は軒勝ちとし、必要に応じて金属製小口見切り又はシーリング材等でおさめる。

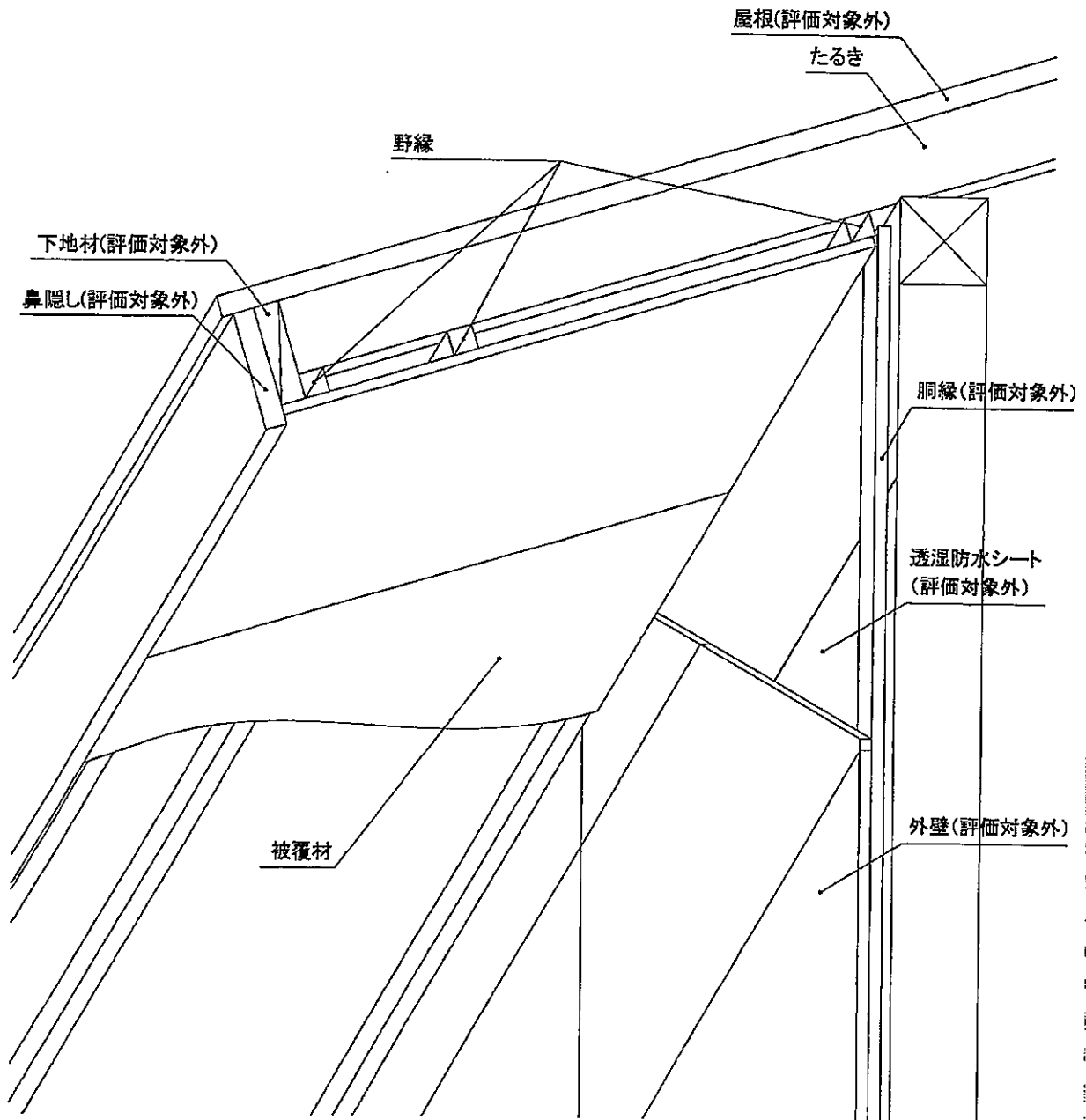
被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合



透視図

図7 施工図

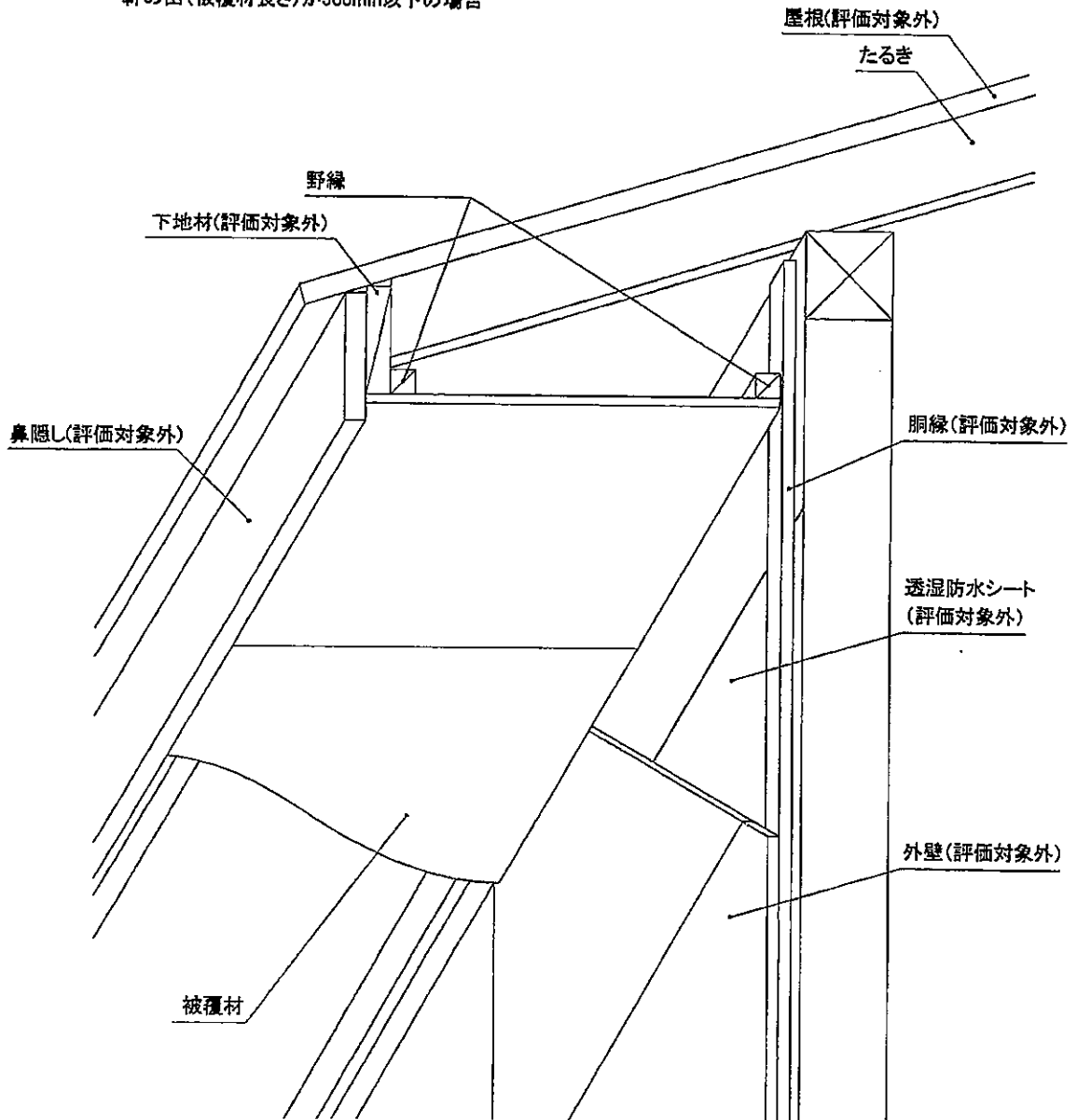
被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500~1000mm以下の場合



透視図

図8 施工図

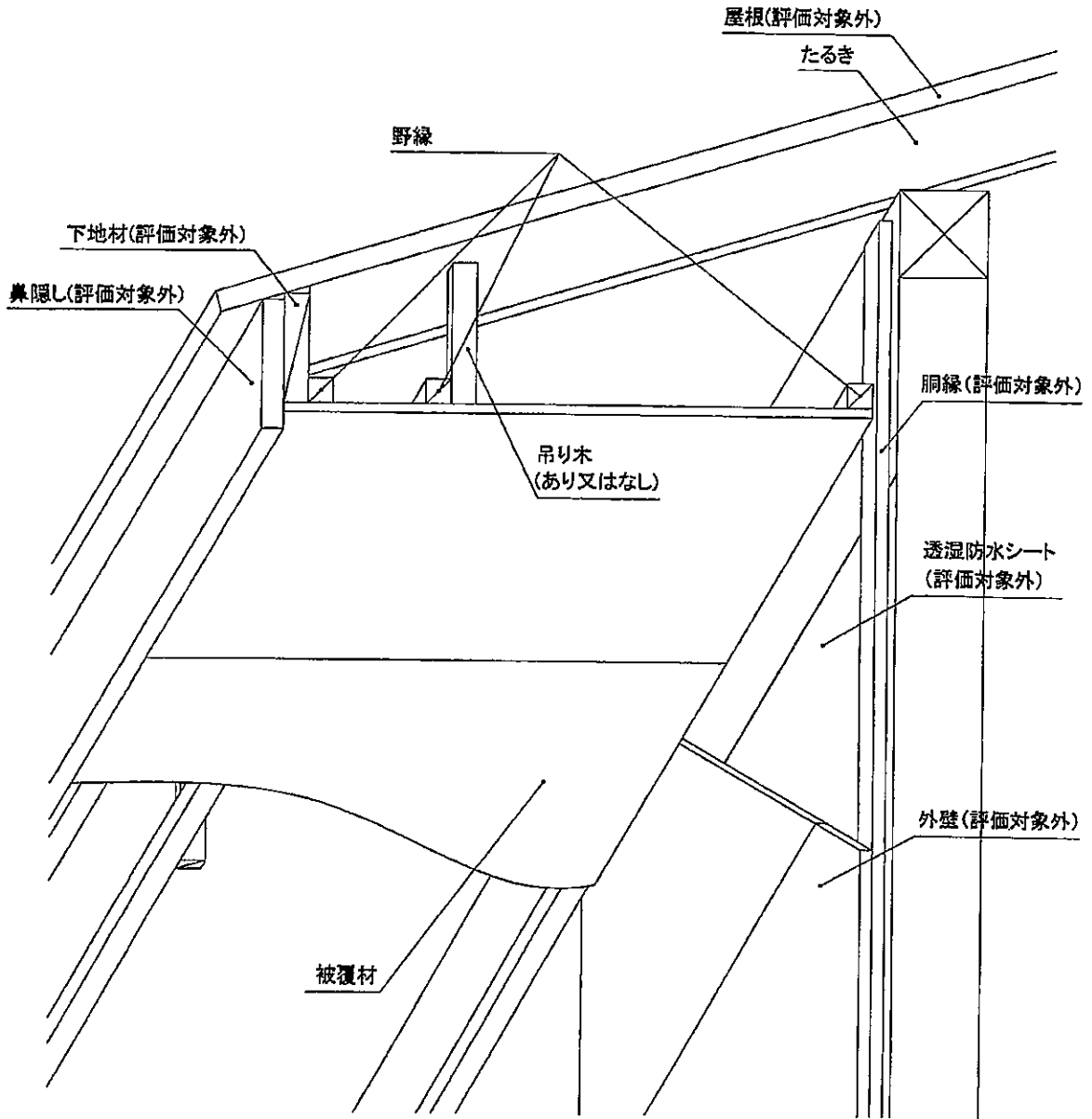
被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合



透視図

図9 施工図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500~1000mm以下の場合



透視図

図10 施工図